

消防団長紹介

守口市消防団 団長 山田 幾久雄

守口市は、昭和 21 年に守口町と三郷町が合併し、全国で 206 番目、大阪府で 11 番目の市として誕生しました。昭和 32 年に庭窪町と合併し、現在の市の姿となったことで市政は急速に進み、人口は昭和 46 年にピークの 18 万 8 千人を数えました。徐々に人口は減少しているものの、12.73 km²に約 14 万 4 千人が居住しており、全国的に見ても高い人口密度となっています。

地理は、数千年前までは海（大阪湾）でしたが、その後、隆起作用や上流からの土砂の堆積などにより陸地化が進み現在の市の地理となっていきました。

本市は、大阪平野のほぼ中央部、淀川の左岸に存在し、南と西は大阪市に、東は門真市に、北は寝屋川市に接した平坦地です。

本市が位置する寝屋川流域は、河川の水面より低い低平地となっており、流域の 4 分の 3 は雨水が自然に河川に流れ込まない「内水域」となっています。

守口市消防団の歴史は、昭和 32 年に設立、平成 28 年に南寺方分団が発足し 14 分団となり、平成 29 年に北寺方分団が発足し 15 分団となりました。

団長 1 名、副団長 3 名、小隊長 3 名、分団長 15 名、副分団長 15 名、部長 15 名、班長 15 名、団員 128 名の計 195 名で構成しています。

主な活動状況として、火災予防運動等の啓発活動をはじめ、防災訓練等で各地域を対象とした訓練を行っています。

私は、昭和 58 年 1 月 1 日に団員を拝命、翌年には副分団長となり、以後は部長、分団長を歴任、平成 20 年 4 月より副団長、平成 31 年 4 月には団長に任命されました。

入団当初の冬、真夜中に工場火災があり、先輩団員が朝方まで消火活動をしている姿を見て、消防団員の在り方を強く意識しました。

今日のように世界的に災害が多い時代に、我々団員は、訓練・研修に積極的に参加し、いつ起こるかもしれない大規模災害に臨んでいきたいと思っています。